

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

大網白里の自然と共生するまちづくり計画

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

千葉県山武郡大網白里町

### 3 地域再生計画の区域

千葉県山武郡大網白里町の全域

### 4 地域再生計画の目標

大網白里町は県都千葉市の東部に隣接し、都心から50～60km圏域にあり、千葉県の中央部に位置する面積58.06km<sup>2</sup>の町である。

本町の歴史的背景として、明治2年2月に宮谷の本國寺に庁舎が置かれ、明治4年11月の木更津県が設置されるまでの2年9ヶ月の間、県政の表舞台となり、千葉県近代史の一端を担った経緯がある。

また、地理的背景としては、西部は丘陵地域、中央部は田園地域、東部は太平洋に面する海岸地域という地形であることから、自然に恵まれた多彩な景観を有している。特に約3.5kmの海岸線を有する白里海岸は、夏休みシーズンに入ると県内外からの多くの海水浴客で賑わいを見せ、海水浴客は県内で4番目に高い順位にある。

西部丘陵地域には、小中池公園が整備され、多くの自然に囲まれた昔ながらの里山が保全されているこの公園は、千葉県立九十九里自然公園の区域にあり、首都圏自然歩道「関東ふれあいの道」のコースにもなっている。また、例年4月下旬から5月上旬にかけて「こいのぼりまつり」を開催しており、このイベントは町内外から集められたこいのぼりを小中池の湖面上に掲げることで、子どもたちの健やかな成長を願うことを意味している。色とりどりのこいのぼりが湖面上に映ることから、5月の連休シーズンは家族連れ的身近な行楽スポットとして知られている。

町内にはJR外房線の大網駅、永田駅があり、大網駅はJR東金線との分岐点に位置し、特急・快速列車の停車駅でもある。大網駅の1日の平均乗車人数は1万1千人前後であり、特急列車で東京駅まで約45分という利便性の高さがその一因となっている。

町の変革の背景としては、昭和40年代の後半から鉄道網や道路網の整備

が進み、首都圏への通勤圏となったことから、千葉市や都心部からの郊外型ベッドタウンとして注目され、5団地構想も含めた宅地開発が急速に進行し人口増加が加速した。平成12年の人口は47,036人に達し、平成17年の国勢調査時には5万人を超えることが見込まれている。

しかし、これまでの小規模宅地開発増加で河川・農業用排水路の水質汚濁の問題が生じ、生活排水処理等の基盤整備が追いついてこなかったため、良好な自然環境を保全していくことが住民生活・産業振興の面で欠かせない課題となっている。

一方、汚水処理対策による生活環境への効果がまだ十分ではない一部の地域、特に、海岸地域においては、九十九里浜に面する海水浴場という観光資源を有しているため、排水路の悪臭や周辺の景観への悪影響が懸念される。

また、本町の全域にまたがる市街化調整区域は、西部の森林環境、中央部の田園環境、東部の水辺（海岸）環境というそれぞれ特徴のある自然環境が残されており、これらは本町の景観上の特徴であることから積極的に自然の保全を図っていかねばならないという課題も存在する。

以上の課題を踏まえ、豊かな自然環境と利便性の高い交通条件にある本町の地域再生には、「このまちに住んで良かった」と実感してもらえる「ふるさと」大網白里町の実現、ひいては、海岸部の「観光資源」としての魅力の向上を目指すことが欠かせない要件であると考えます。

そのためには、まず住民一人一人の環境への配慮が必要となってくることから、環境基本条例を平成14年に制定し、公募により選ばれた町民、各種団体、事業者から成る「大網白里町町民環境会議」を設置し、活動を行なっている。町の望ましい姿・将来像につながる目標に向けた具体的な取組を検討し、平成18年3月までに「大網白里町環境基本計画」の策定を目指す。

このほか、家庭内から排出される食用油が川の水質汚濁の最大の原因となるため、不要な食用油の回収事業を平成14年から行なっている。回収した食用油は石けんやバイオディーゼル燃料（軽油代替燃料）としてリサイクルされ、平成14年度における回収量は1,853リットルだったのに対し、平成16年度の回収量は3,003リットルまで達した。年々回収量・利用者も増加傾向にあり、水質汚濁防止に有効な手段であることから、今後もさらなる回収量の増加を目指す。

これら住民参加の取組みを積極的に行なうことで、自然環境の持続的な保全と豊かな生活環境が図られるものと考えます。

また、汚水処理対策による生活環境への効果がまだ十分ではない一部の地域については、支援措置A3002「汚水処理施設整備交付金」を活用し、白里市街地における公共下水道の整備及び市街化調整区域における浄化槽設

置の普及促進を図っていくことで、定住促進、観光客の増加につながるものと期待できる。

このように、本計画の実現は都市と自然環境が調和した住みよいまちづくりの実現に貢献できるものである。

**(目標1)**

公共下水道普及率：現状約50% 約64%の向上を目指す

浄化槽整備基数：現状599基 716基(20%)の向上を目指す。

**(目標2)**

家庭で不用となった食用油の回収量：現状約3,000リットル

約3,400リットルの向上を目指す。

## 5 目標を達成するために行う事業

### 5-1 全体の概要

本町は豊かな自然環境に恵まれていることから、その豊かな自然を未来に引き継ぐとともに、「このまちに住んで良かった」と実感してもらえる「ふるさと」大網白里町の実現を目指すとともに、海岸部の「観光資源」としての魅力向上を目指している。

この目標を達成するためには、衛生的で快適な生活環境の確保、公共用水域の水質保全が不可欠となることから、公共下水道及び浄化槽の整備・普及の計画的かつ効率的な推進を図るものである。

整備・普及に関する基本的な考え方として、人口密集している市街化区域内については、公共下水道により整備を行い、それ以外の、家屋が比較的分散している市街化調整区域については、管渠建設費が割高となることから、浄化槽の整備・普及を図るものとする。

ただし、経済比較や地域特性等も考慮する必要があることから、地域の実情に合った整備手法は状況により柔軟に対応していく。

### 5-2 法第4章の特別の措置を適用して行なう事業

**[事業主体]**

・いずれも大網白里町

**[施設の種類]**

・公共下水道、浄化槽

**[事業区域]**

・公共下水道 大網白里町四天木地区、北今泉地区及び南今泉地区

(下水道法認可済)

- ・浄化槽 大網白里町全域(公共下水道等区域を除く)

**[事業期間]**

公共下水道 平成17年度～21年度  
浄化槽(個人設置型)平成17年度～21年度

**[整備量]**

- ・公共下水道 200～300 3,646m
- ・浄化槽(個人設置型)5人槽 95基  
7人槽 20基  
10人槽 2基

なお、各施設による新規の処理人口は下記の通り。

公共下水道 四天木地区及び北今泉地区で592人

浄化槽 大網白里町全域(公共下水道等区域を除く)で635人

**[事業費]**

公共下水道	563,569 千円 (うち、単独 199,569 千円) (うち、国費 182,000 千円)
浄化槽	59,127 千円(県上乘せ補助分を含む) (うち、国費 13,289 千円)
合計	622,696 千円 (うち、単独 222,488 千円) (うち、国費 195,289 千円)

**5 - 3 その他の事業**

5 - 3 - 1 食用油再生処理事業

5 - 3 - 2 大網白里町環境基本計画の策定及び推進

**6 計画期間**

平成17年度～21年度

**7 目標の達成状況に係る評価に関する事項**

計画終了後に、4に示す数値目標に照らし、本町で導入している行政評価の仕組みを活用した評価を行ない、評価結果を公表する。

**8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項**  
該当無し

**(添付資料)**

・ 図面、工程表等